

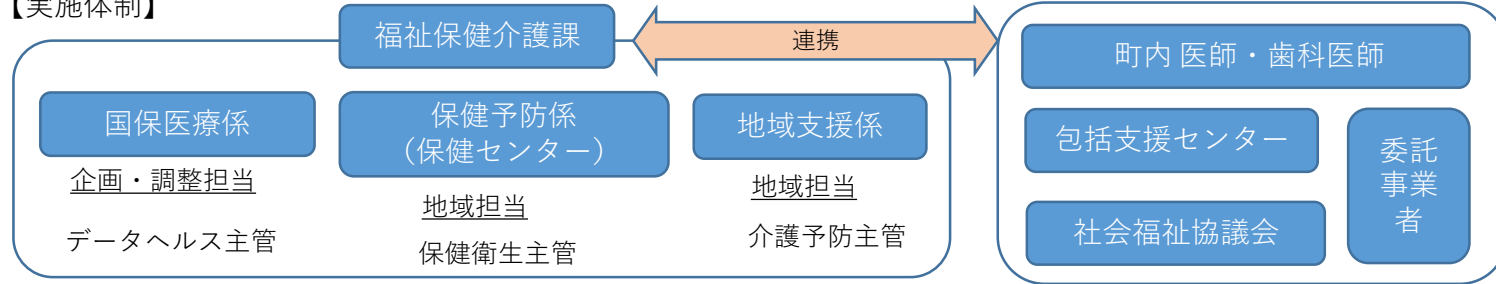
熊本県長洲町

- 高額な医療費や新規介護申請の原因疾患上位となっている「骨折歴のある者」等への支援を行うことで、低栄養、口腔機能、重症化予防など、多岐にわたる健康課題に対応しフレイルの予防につなげている。
- 介護予防の取組みについては、令和元年度に九州厚生局主催の地域包括ケア大賞「部門賞」を受賞。様々な取組みの中、「口腔」「栄養」では保健事業と連携し事業を実施してきており、さらに「シニア男性のこれカラダ健康教室」など新規メニューも追加・充実。

【概況】令和4年1月31日時点

人	口	15,566人
高齢化率		36.8%
後期被保険者数		2,718人
日常生活圏域数		2圏域

【実施体制】



【取組経緯】

- これまでは、国民健康保険から後期高齢者医療への移行により健診受診や保健指導の繋がりが途切れること、介護予防との連携や情報共有に課題があったが、当事業を行うことで、保健事業と介護予防を一体的にとらえ、課題に対応することが可能となるため実施。
- 既存の事業や各団体が有する情報等を統合することで、町の健康課題への取り組みや関係者との連携を効率的に実施することが可能となるため実施。

【企画・調整等】

町の健康課題の把握には、国保データベースシステムの活用や社会福祉協議会等の地域に関わる者からの情報収集と連携を行う体制づくりが重要である。

高額な医療費や新規介護申請の原因疾患の上位は、骨折、脳血管疾患等、フレイルや生活習慣病の重症化が原因となっており、健診受診勧奨や保健指導等と併せてフレイル予防を行っていく必要がある。

【ハイリスクアプローチ】

- 骨折歴のある者への支援
(対象者は国保データベースシステムより抽出)
 - ・質問票により現在の健康状態を把握
 - ・対象者の健康・生活状況に応じて医療や通いの場介護支援等につなげる
- 認知症疑いのある者への支援
(対象者は国保データベースシステムより抽出)
- フレイル疑いのある者への支援
(対象者は健診受診者のうち質問票より抽出)
- 重症化予防対象者への支援
(対象者は健診受診者のうち町基準該当者)

【ポピュレーションアプローチ】

- シニア男性のこれカラダ健康教室 など食の自立等を目的に週1回全12回の教室を実施。毎回の体組成測定と健康講話（アルコール、喫煙、こころ、栄養、歯科口腔等）の他に元気あっぷ体操、調理実習、脳トレ、ものづくりを実施。



○課題、今後の展望

- ・健康や治療状態、地域参加の有無等不明者が多く、対象者への介入時にはより詳細な聞き取りが必要。対象者が自身の健康状態を客観的に見る指標や気づけるような動機付け、根拠（国保データベースシステム）を用いて健診受診や通いの場等につなげられるように対象者の理解を得ていく。
- ・令和4年度からは、健康状態不明者への支援やICTを活用した健康講話等についても取組む予定。